

登録番号	第 3 7 4 9 8 8 7 号
発明の名称	DNAの伸長固定方法
特許権者	独立行政法人食品総合研究所、 生物系特定産業技術研究推進機構
発明の概要	<p>溶液中のDNAを溶液の流れまたは気液界面の移動により基板上に配向固定する方法において、雲母板、ガラス板、シリコン板およびサファイア板のいずれかの基板上に高さ1 μm以下10nm以上の直線、円弧、方形また円形の凹みの形状をなして形成されている段差を設け、その段差と交差する方向に重力・遠心力、電気泳動またはポンプによる送液あるいは吸い上げの手段でDNA溶液を流すか、または気液界面を移動させることにより、DNAの末端を段差面に付着させ、溶液の流れまたは気液界面の表面張力によりDNAを配向、伸長させるDNAの伸長固定方法である。このように伸長固定されたDNA上の遺伝子を蛍光色素ないしは微小金粒子などにより標識すれば、AFM（原子間力顕微鏡）やSNOM/AFM（走査型近接場光プローブ顕微鏡）により、その位置をナノメートルレベルで逐次決定して行くことが可能になる。</p>
産業上の 利用性	<p>DNAを基板上の片面の特定位置に直線状に引き伸ばして固定することができるので、AFM（原子間力顕微鏡）やSNOM/AFM（走査型近接場光プローブ顕微鏡）による遺伝子位置の詳細な決定を行うことが可能である。</p> <p>適用製品 DNAの伸長固定方法が考えられる。</p>
関連特許	なし